

プレスリリース

## 再生可能エネルギー、最安値の石炭火力発電 に対してもコスト優位に

IRENA の新たな報告書は、各国が COVID-19 からの経済回復を期するなかで、発電コストで強みを持つ再生可能エネルギーが魅力的な投資対象であることを明らかにしています

【2020年6月2日、アラブ首長国連邦アブダビ】再生可能エネルギー発電は、化石燃料由来の新規電力容量に比べてますます安価になっていることが事実となりました。国際再生可能エネルギー機関（IRENA）の新たな報告書『2019年版 再生可能エネルギー発電コスト[原題：[Renewable Power Generation Costs in 2019](#)]』のなかで明らかにしたもので、2019年に導入された再生可能エネルギーの発電容量の半分以上において、最も安価な新規石炭火力発電よりも発電コストが低かったことが示されています。

同報告書は、新規に導入される再生可能エネルギー発電が、既存の石炭火力発電所に対しても価格優位性をいっそう強めていることを強調しています。新規の太陽光発電（PV）や陸上風力発電の平均コストは、既存の石炭火力発電所の操業を継続する場合のコストを下回る状況となっています。各種入札結果は、この傾向がさらに加速することを裏付けており、石炭火力発電からの完全な撤退に合理性を与える論拠となっています。来年、既存の石炭火力発電容量のうち最大 1,200 ギガワット（GW）分の稼働コストが、新規の大規模太陽光発電のコストを上回るとしていません。

来年、もっともコストが高い 500GW 分の石炭火力発電を太陽光発電や陸上風力発電に置き換えた場合、電力系統コストを毎年最大 230 億米ドル抑制し、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の年間排出量を約 1.8 ギガトン（Gt）削減することが可能です。これは 2019 年の世界の CO<sub>2</sub> 総排出量の 5% に相当します。また、世界の GDP の 1% に相等する 9,400 億米ドルの投資を喚起することにもなります。

IRENA のフランチェスコ・ラ・カメラ事務局長は「わたしたちはエネルギー転換の重大な岐路に差し掛かっています。石炭火力発電は、新規のものも、既存ものの大部分も、環境的にも経済的にも正当化できるものではありません」と述べています。「再生可能エネルギーが新たな電力のもっとも安い電源になるとともに、世界経済を活性化し、人々が職場復帰を果たすうえで莫大な可能性を提示しています。再生可能エネルギーへの投資は、安定的で費用対効果が高く、一貫して予測可能な

リターンをもたらしてくれる魅力的なオファーであると同時に、経済全般に恩恵をもたらしてくれます。」

ラ・カメラ氏は「世界経済の回復戦略は、環境にやさしいグリーンな戦略でなければならない」とも述べています。「再生可能エネルギーは、短期的な政策措置を中長期的なエネルギーや気候の目標に即した形で実施する方策を示しています。再生可能エネルギーは、各国が COVID-19 感染拡大後の経済再生策の基幹的な取組でなければなりません。適切な政策を実施すれば、再生可能エネルギーの電力コストの低下が市場を動かし、グリーンな回復に大いに貢献することができます。」

再生可能エネルギーの電力コストはこの 10 年で急激に下がりました。コスト低下を牽引したのは、技術の改善、規模の経済、サプライチェーンの競争力向上、開発事業者の経験蓄積です。2010 年以降に最も大幅なコスト低下を実現したのが大規模太陽光発電の 82% 減で、次いで集光型太陽熱発電 (CSP) の 47%、陸上風力発電の 39%、洋上風力発電の 29% となっています。

太陽光発電及び風力発電の技術においても、毎年コスト低減が進んでいます。大規模太陽光発電の電力コストは 2019 年に 13% 低下し、世界平均でキロワット時 (kWh) あたり 6.8 セント (0.068 米ドル) になりました。陸上及び洋上の風力発電はいずれも 9% 下落し、それぞれ 0.053 米ドル/kWh、0.115 米ドル/kWh になりました。

最近の入札や電力購入契約 (PPA) の結果は、2020 年以降に稼働開始の新規プロジェクトについてもコスト低下の傾向が続くことを示しています。競争入札の手続きを経て決定された 2021 年に稼働を開始する太陽光発電の調達価格は、平均で 0.039 米ドル/kWh になり、2019 年比で 42% の低下、最も安価な化石燃料の電源である石炭火力発電よりも 20% 以上低い水準です。アブダビ及びドバイ (ともに UAE)、チリ、エチオピア、メキシコ、ペルー、サウジアラビアにおいて記録した太陽光発電の最低入札価格の記録は、0.03 米ドル/kWh という低価格がすでに現実味を帯びていることを裏付けています。

今回の IRENA の年次コスト報告書では、新たに発電コストの低下に関連した投資価値についても分析を加えています。今日の再生可能エネルギーの発電に対する投資は、10 年前に同額の投資と行った場合と比較して、より大きな設備導入を実現することが可能です。2019 年に稼働を開始した再生可能エネルギー発電の設備容量は、2010 年比で倍増しましたが、それに要した投資額は 18% の増加にとどまっています。

『2019年版 再生可能エネルギー発電コスト』の[概要](#)

『2019年版 再生可能エネルギー発電コスト』の[全文](#)

###

## 国際再生可能エネルギー機関（IRENA）

IRENA は持続可能なエネルギーの将来に向けて移行しようとする国を支援する国際的な政府間組織で、国際協力の主要なプラットフォーム、研究拠点、再生可能エネルギーに関する政策、技術、リソース、経済に関する知識の集積所として機能しています。IRENA は現在加盟国数 161（160 カ国および欧州連合）と加盟手続き中 22 カ国をかかえ、あらゆる形態の再生可能エネルギーの普及と持続可能な利用を推進しており、持続可能な開発、エネルギーへのアクセス、エネルギーの安全保障、低炭素経済の成長と繁栄を追求しています。

お問い合わせ先：

IRENA : Nicole Bockstaller（コミュニケーション・オフィサー） / 電話+971 56 681 69 46 /  
メール [nbockstaller@irena.org](mailto:nbockstaller@irena.org)

IRENA をフォロー：[www.twitter.com/irena](https://www.twitter.com/irena) / [www.facebook.com/irena.org](https://www.facebook.com/irena.org) /  
[www.linkedin.com/company/irena](https://www.linkedin.com/company/irena)